資料４－３
古墳壁画保存活用検討会（第3回）
H20. 12. 17

高松塚古墳仮整備の進捗状況について

１．仮整備工事の概要

既存の旧保存施設を撤去し、墳丘等の外形復元と周辺造成を行う。復元は遺構を埋め戻した上で、墳丘及び周溝の外形を盛土張芝により整備する。また、整備に伴い、墳丘南側及び撤去跡（墓道部）等の発掘調査を行う。

２．これまでの実施内容

・発掘調査（墳丘裾東側および周溝）	平成２０年７月～１０月
・旧保存施設機械設備、電気設備撤去	平成２０年８月
・旧保存施設２階部分（前室）撤去	平成２０年１１月
・発掘調査（古墳南西部、墓道部）	平成２０年１２月～平成２１年１月（予定）

３．今後の予定

・発掘調査の成果を踏まえた設計変更	平成２１年１月～２月
・旧保存施設１階部分（機械室）撤去	平成２１年２月～３月
・発掘調査（墓道南部）	平成２１年４月
・墳丘復元	平成２１年４月～６月

石室解体中の墳丘周辺の状況（平成 19 年 7 月）

墳丘上の仮設覆屋を撤去した状況（平成 20 年 6 月）

墳丘南側上半の整備用盛土を除去した状況
（平成 20 年 8 月）

旧保存施設撤去工事の状況（平成 20 年 11 月）

（参考1）

高松塚古墳旧保存施設の撤去について

＜旧保存施設について＞

（目　的）

修理・点検等の石室内作業を安定的環境の下で行うために設置されたもの。

作業者が石室内に出入りする際、石室内に外気の影響が及ぶことを出来る限り少なくするため、3つの前室を経て石室入口に到達する構造となっている。

（機　能）

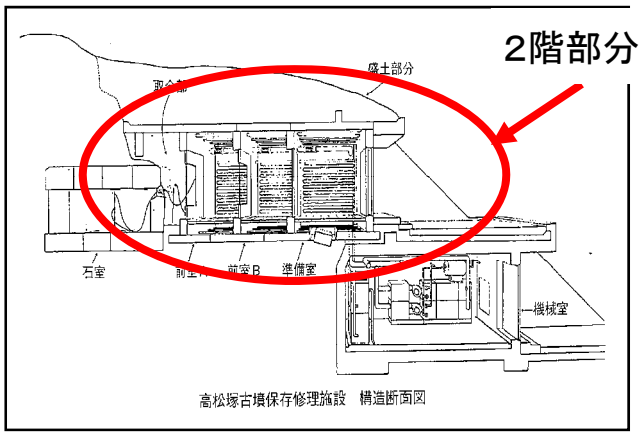
前室の温度を石室周辺の土中温度に保持するため、銅管パネルに常時温水（冷水）を流す「パネル系」と、前室に入室する場合に石室と同じ温度の風を前室に送風する「空調機制御系」の2系統の空調設備で保存環境を維持する。

（経緯）

昭和47年3月　壁画発見
昭和47年4月　文化庁に管理移管
昭和49年7月　保存施設の着工
昭和51年3月　保存施設竣工
平成19年6月　施設の機能停止
（壁石取り上げ終了時）
平成20年11月　保存施設の撤去

（仕様）

・地中2階建て
・1階　鉄筋コンクリート構造
・2階　ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ（PC）組立式構造
・総工費　約9,600万円



クレーンでPCを吊り上げる（11/14）

取合部付近にカビらしきものが確認できる

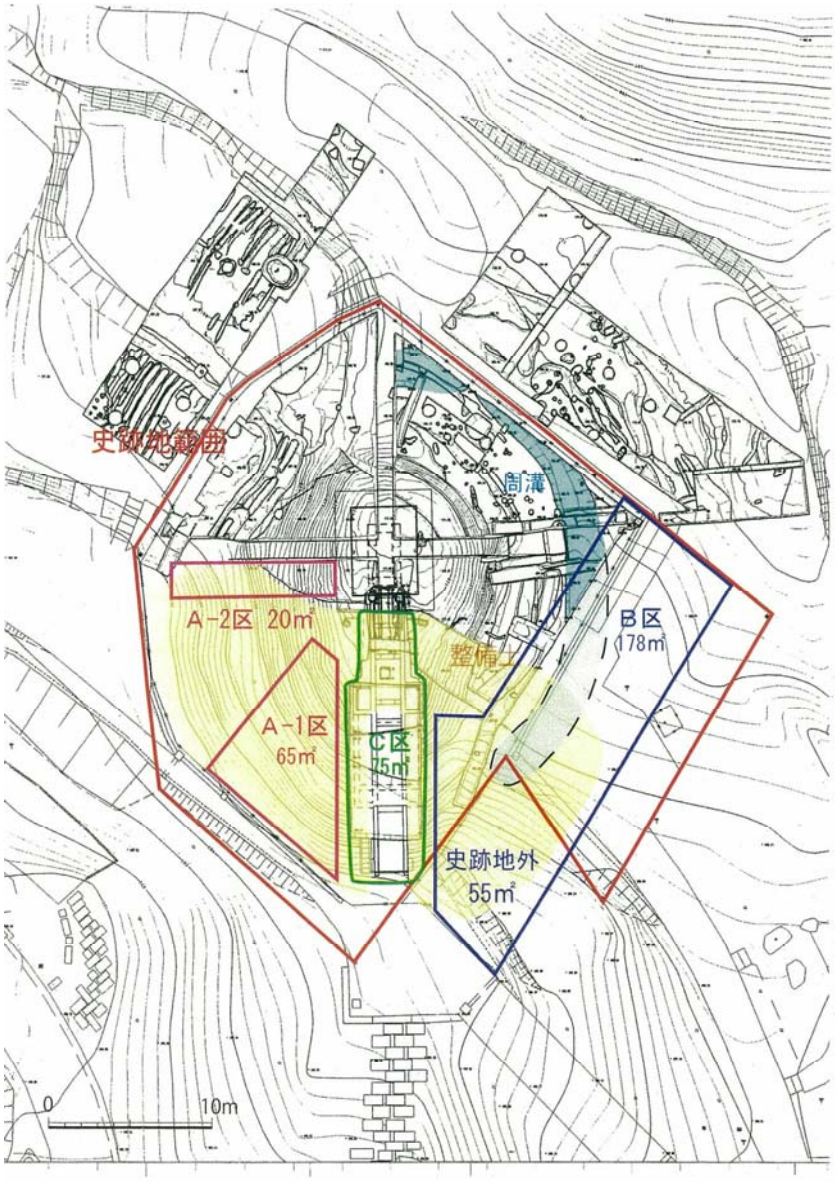
2階部分撤去後の状況（11/28）

（参考2）

高松塚古墳仮整備に伴う発掘調査について

（目　的）
　古墳の形態や周辺の状況が明らかになっていない南側部分を中心に発掘調査を行うことで、古墳の仮整備を適切に実施する。

（調　査）
・B区調査（平成20年7月～10月）
・A区、C区上段調査（平成20年12月～平成21年1月）
・以降、C区下段調査



総調査面積 338㎡
史跡地内（現状変更部分） 283㎡
史跡指定地外 55㎡

＜B区調査区の主な成果＞

○古墳築造後の土地利用に関する調査成果
・大規模な中世遺構の検出

○古墳に関する調査成果
・周溝の検出
・排水施設の検出
・墳丘周辺の原地形と改変の推移

（参考3）

高松塚古墳仮整備工事について

（目　的）

石室解体（平成19年4月～8月）後、壁画・石材の修理期間(約10年間）中における古墳の仮整備を行うもの。推定される古墳の外形を見学者が体感できるようにするためのもの。

（内　容）

1. 石室解体後、埋戻しを行う。(平成19年9月～10月実施済）
2. 旧保存施設を撤去する。
3. 墳丘及び周溝等の外形を復元する。

（手　法）

○　埋戻しには、発掘掘削土、および滅菌処理した土嚢を用い、墳丘頂部からの雨水流入防止のために遮水シートを用いる。

○　墳丘の外形復元の方法は、土を厚さ30cmほど敷きならして十分に締め固めながら重ねるもの。必要に応じて不織布等の透水層を設けるなど崩落防止を考慮する。

○　墳丘の地表面仕上げは張芝とする。周溝には保護盛土を施し、排水機能を持たせる。

仮整備のイメージ

＜今後の作業＞

・保存施設撤去
・墳丘復元

平成21年6月頃完了予定